

子どもの日まつり

1, 趣 旨

子どもの日を記念して施設を開放し、施設の利用促進と地域の活性化を図るとともに様々な体験活動の充実を図る。

2, 期 日

平成26年5月5日（月）日帰り

3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 参加対象

どなたでも

5, 参加実績

人数 1244名



6, プログラム内容

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
5日（月）						10:00受付 10:30~よさこい、フラダンス アカペラ、もちまき 各種体験活動など				14:30終了		

○各体験メニュー

- ・Bサイト : ペットボトルロケット
- ・グラウンド: 軽スポーツ
- ・Aサイト : 流しそうめん、パン焼き、ジンギスカン、アトラクション（吹奏楽団・ヨサコイ・アカペラ・フラダンス・読み聞かせ）、本・クジ、フリーマーケット、もちまき
- ・Cサイト : ジュース・焼き鳥、綿あめ、ポップコーン、どんきみ、かき氷、ヨーヨー釣り
- ・食堂 : 各種メニュー
- ・創作室 : コロケ、七宝焼き
- ・中研修室 : 木工
- ・大研修室 : プラ版作り、うちわ作り、プラレール
- ・スタンプラリー

○協力団体

北海道教育大学函館校吹奏楽団、教育大アカペラサークル、国立大雪青少年交流の家、道南福祉ネット、ニチレイフーズ森工場、函館絵本の会銀の船、マイル本間 星川教室、函館学生連合「息吹」

○ボランティア人数

区分	人数
フラダンス	29
アカペラ	12
息吹	10
吹奏楽	13
一般	35
学生	11
高校生	4
合計	114

子どもの日まつりにボランティアとして114名が協力してくれた。

7, 活動の様子

この事業への参加者は、地元森町だけでなく、函館市や北斗市、七飯町などから来ており、1244名もの参加があった。

この日は、開始時間前から多くの親子連れが次々に訪れ、開始時刻の午前十時半には既に多くの人で会場は一杯になった。

体験コーナーでは、今年もニチレイフーズ森工場の協力得て、無料でコロッケづくり体験が行われた。できあがったコロッケを手にとり参加者も満足げな様子。この他に七宝焼き、プラ板、うちわづくり、お手玉、木工体験なども行われた。どのコーナーも大勢の人で一杯になり賑わった。

また、ステージでは、函館市内の大学生連合よさこいチームの「息吹」をはじめ、北海道教育大学函館校吹奏楽部や同アカペラサークル、さらに地元のサークルのフラダンスなどが、演奏や演技を披露した。素晴らしい響きやハーモニー、踊りに会場からは大きな拍手があがっていた。

昨年に引き続き、国立大雪青少年交流の家の協力のもと行われた「ペットボトルロケット」では、勢いよく上がったロケットにどの子どもも目を輝かせていた。この他にも、施設のグラウンドでは、五十メートル走、靴飛ばし、ストラックアウト、長縄跳びなどの軽スポーツも行われ、夢中になって活動する子どもたちの姿を多く見ることができた。ネイパル森の「温泉」のお風呂も解放し、親子で入浴する姿も見ることができた。

参加者からは、「無料コーナーなどもあり、家族で楽しく過ごすことができた」「初めて来たが、いろいろな体験ができてとても楽しかった」といった感想があり、施設の魅力を心行くまで味わっていた。

まつりの最後には、「もちまき」も行われ、どの参加者も夢中になってモチを集めていた。モチがまかれるたびに、会場からは大きな歓声が浮き上がっていた。

8、参加者の声

○初めてネイパル森にきたが、スタンプラリーや創作活動などあり大変楽しい時間だった。

○スタンプラリーで全部集めることができ、最後にはお菓子ももらえて嬉しかった。

9、事業の分析と考察

本事業は、毎年 1000 人を超える人数が来ており、来館する人たちが「楽しい時間」となるよう、ネイパル森職員と運営ボランティアと共に協力しながら事業を進めている。各ブースで協力してくれる運営ボランティアは大きな存在であり、今年度は、高校生や大学生、社会人合わせて 114 名もの人たちが来てくれた。中には、ステージでの演技や演奏を終えたあとブースに入りボランティアとして活躍してくれた人もいる。ボランティアからは、「来館する人たちと触れ合ったり、話したりすることがとても楽しかった」という声が上がっていた。来館する人たちにとっては、事前申込無しで気軽に来ることができる。また、ここでの楽しかった思い出をきっかけに、ネイパル森の主催事業へ参加する親子が毎年数組いる。

ネイパル森のとしても、たくさんの来館者を迎えるため力を入れている事業である。そのため、次年度に向け職員だけではなくボランティアからの運営に対しての課題などにしっかりと取組、一人でも多くの人たちにとって「楽しい」時間となるよう提供していきたいと考えている。

10、成果と課題

○成果

- ・大きな事故もなく終了することができた。
- ・曇っている状況ではあったが、1000人を超える来館者がきた。例年1000人を超えることから、天候などに関係なく一定の集客率や本事業が認知されていることがわかった。
- ・1000人を超えるボランティアがきてくれることで、事故なく、運営が大変スムーズにすることができた。

○課題

- ・宿泊利用につながるPR活動が足りなかった。そのため、宿泊利用促進につながる声掛けを今後考えていきたい。
- ・1000人以上もの多くの人数に対応した、運営体制・環境整備の工夫をしていきたい。例えば、施設内ゴミ箱を期間限定で設置や、大人気プログラムの担当ボランティアへの昼食を食堂食以外の提案方法などを考えていきたい。

